

機関番号：22604

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20760428

研究課題名（和文）歴史的建造物と現代建築のデザインの融合—フランスにおける再構築事例に関する考察—

研究課題名（英文）The Wedding of Historical Monument and Contemporary Architecture: A Study on the Works Restructured in France

研究代表者

三田村 哲哉（MITAMURA TETSUYA）

首都大学東京・都市環境科学研究科・客員研究員

研究者番号：70381457

研究成果の概要（和文）：今日フランスでは、歴史的建造物に現代建築の要素を積極的に加えながら、新たな建築に再生させた作品が高く評価されている。本研究では、歴史的建造物の竣工から近年の改修までの経緯を明らかにする歴史学的考察と、現代建築の融合という新たな建築手法に関する意匠学的分析を通して、歴史的な建造物であっても大胆な改修が繰り返されている場合が多いこと、「歴史性」を尊重する建築保存と「将来性」を確保する新要素の付加のバランスが重要であることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：They highly appreciate the works combined historical monument with the many elements of contemporary architecture, and regenerated as a new architecture in France today. Through the historical consideration on transition of the works from completion of construction to recent restructuring, and the design analysis of the methodology of the combination, the followings were made clear. It's often the case that historical monument was refurbished actively in France. It is important to take a balance between the preservation of historical monument, and the adding the new elements of contemporary architecture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：歴史的建造物、現代建築、デザインの融合、フランス、再構築、パリ、建築造形、建築意匠

1. 研究開始当初の背景

（1）我が国は、世界的に広がる遺産保全の思想を背景に、既存の建築、とりわけ歴史的建造物を有効に活用することが求められている。欧米の建築先進国が各都市で、こうした事業を積極的に展開し、成功を収めている

からである。日本の「建築保存」の技術は高いものの、建築の意匠・造形面における向上が必要とされており、これらの建築先進国の先例を参照することが不可欠である。こうした新たな事業は、日本の建築界の最大の課題のひとつであると言える。

(2) フランスには、建築構造・設備面のみならず、歴史的建造物に現代建築を積極的に取り入れることによって、建築の意匠・造形の面においても再生に成功した作品が数多く点在している。こうした状況は、パリのみならず地方都市においても数多く確認されており、これは本研究の実施を決定した背景の一つに挙げられる。

(3) 考察対象の選出は、科研費(若手B)に基づいて2005年度および2006年度に実施した研究「パリにおける近代建築の改修事例に関する意匠考察」では、フランスの主要な建築雑誌のうち、1990年以降に発行された記事に基づいている。本研究の考察対象についても同様で、(2)はすでに明らかであった。本研究を遂行するに至った契機のひとつは、このパリにおける建築改修に関する実地調査であると言える。

(4) またパリにおける実地調査において、歴史的建造物に巧みに現代建築を取り入れることによって、新たな建築へと生まれ変わった作品が数多く確認された。研究「パリにおける近代建築の改修事例に関する意匠考察」では、研究の視点を単に「建築改修」にのみ定めていたが、「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」という新たな考察の視点は、同研究の中で生まれたものであり、その成果のひとつである。

(5) 2003年度より世界のコンバージョン建築(用途を変更して再生された新たな建築)に関する実地調査研究を継続しており、諸外国において再構築された作品の実態も把握している。こうした観点から他国にはない、「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」というフランス建築特有の特徴を描き出すことを試みた。

2. 研究の目的

(1) フランスでは、歴史的建造物の潜在的な価値や魅力を最大限に引き出しつつ、現代建築の要素が加えられた作品の竣工から今日の再生に至るまでの変遷を明らかにする。こうした作品は、一度だけではなく、度重なる工事が実施されている場合が多い。本研究では、各作品ごとにその遍歴を明らかにしつつ、それぞれの工事によって改造された点と、その操作の手法を把握する。

(2) 「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」は、単に「建築保存」という既存建築を尊重した建築操作のみに留まっているものではない。こうした事業は、保護、修復、修繕、復元、再現を主体とした「建築保存」を中心に、改修、増築、減築などの工事を柔

軟に組み合わせることによって既存の建築を新たに再生されるものである。したがって、「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」を明らかにするためには、こうした建築操作を分類し、整理しつつ、全体像を把握することが求められる。

(3) 本研究の目的は、こうした建築操作を意匠や造形という観点から、各作品ごとにまとめつつ、その効果を明らかにすることにある。

(4) 本研究は、2-(1)で示した建築の歴史的な考察を踏まえた上で、2-(2)および2-(3)に記した建築の意匠学的な考察を実施することによって、今日フランスにおいて興隆を成す「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」が実現した作品の全体像を明らかにしたものである。

(5) 新築の建築にのみ焦点が当てられてきた建築意匠学、あるいは建築設計学に対して、既存建築の再構築にも対応した建築意匠学あるいは建築設計学を提示することも本研究の重要な成果となる。

3. 研究の方法

(1) 「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」の実現した作品は、新たなタイプの建築であるため、同国において一定の評価を得たものの中から選出することが求められる。同国において発行された建築専門書および建築専門誌(*L'Architecture d'aujourd'hui*, *Techniques et architecture*, *Le miniteur architecture AMC*)などから、本研究の趣旨に合致した建築作品を抽出したのは、こうした目的からである。文献調査の対象となる雑誌記事は、こうした事業がフランスにおいて興隆を成すようになった時代とするために、先述の通りとした。

(2) 選出した作品は、建築操作に基づいた分類の後、秀作を選出してから、実地調査の対象を決定した。

(3) 実地調査を実施したのは、本研究の期間である2008年度から2010年度に渡って、毎年1回ずつであり、フランスの地方都市において実施した。文献調査を行ったのは、現地のみならず、パリ及び各地方都市の古文書館、図書館、建築機関などである。

(4) 主要な考察対象は、建築図面と書類他を収集し、各作品ごとに実地調査を遂行、これら一連の調査を踏まえて、歴史的考察と意匠学的考察を実施した。

4. 研究成果

(1) 「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」によって生まれ変わった建築は、既存の建築が潜在的に有する価値や魅力を最大限に保持しつつ、今日の要求に応えるために、現代建築の利点や快適性や機能性や合理性が加えられるので、更地に新たに建築を建設する新築には全く見られない、「意外」な新築となる可能性を有している、したがって、こうした作品はこれまでの建築意匠学において論じられてきた造形論の領域を超えた新たなタイプの建築として解釈することが求められる。こうした知見を明らかにしたことが本研究の第一の成果である。

(2) こうした建築事業の基本は、歴史的建造物の保護、修復、修繕、復元、再現を中心とした「建築保存」にあり、その建築の竣工当時あるいはこれまでで最も繁栄した時代など、建築そのものが極めて高く評価された時期の形に可能な限り近づくように、改善が実施されてきた。したがって、このような時代の後に増築された不相応な要素は、減築または破壊の対象となり、その一方、後の風化や劣化などによって欠落した部分は保護、修復、修繕、復元、再現または増築の対象となっている。こうした方針が「建築保存」の基礎とである。

(3) しかし今日、フランスにおいて高く評価されている作品は、このような「建築保存」のみにとどまらず、建築意匠・造形の面においても、新たな現代建築の要素が加えられたものである。「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」が実施された作品では、不相応な要素の減築や破壊、風化や劣化などによって欠落した部分の保護、修復、修繕、復元、再現または増築が施された上で、さらに現代建築による新棟への変更や増築、あるいはこうした要素や部分の付加などが実施されている。

(4) 「建築保存」では、既存建築の「歴史性」の尊重に重点が置かれるため、建築デザインの「将来性」を検討するという観点が欠落している。しかし「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」では、既存部の「保存」による「歴史性」の尊重と、新要素の「付加」による「将来性」の確保、これら両者を偏りなく検討することが求められる。

(5) 本研究において取り上げた作品の中には、用途が変更されたコンバージョンと称されるものもあり、こうした作品は多くの建築先進国の抱える環境負荷の軽減、遺産保全の推進、不動産価値の向上、観光事業の促進、産業移転対策、人口移動の改善、空洞化した

都市への対応、軍事施設の転用などの諸課題に柔軟に応える形で、今日の新たな使命に適応した建築に生まれ変わっており、建築単体のみならず周辺地域を含めた効果が期待されている。

(6) 従来、既存の建築、特に歴史的建造物では、修復、修繕、復元などのひとつあるいはふたつの手法によって改善を図り、それがいわゆる建築改修であった。一方、新たな建築改修の手法は、保護、修復、修繕、復元、再現を主体とした「建築保存」のみではなく、不要な部分の減築および破壊と、必要な部分の増築および付加を柔軟に組み合わせることが不可欠であり、研究「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」では、こうした建築改修において積極的に現代建築の要素を取り入れることが鍵であることを明らかにした。

(7) こうした建築改修という事業は、今日に始まったわけではない。様式建築の場合は、ギリシャ、ローマの建築様式、つまり建築デザインの規則に基づいて、風化や劣化した部分は保護、修復、修繕、復元、再現され、また増築もこうした規則に従って実施されてきた。古建築と新建築の調和が第一であると考えられてきたからである。しかし近代以降、今日に至るまで、こうした建築デザインの規則が適応の範囲外に追いやられ、さらにそれが多様化あるいは自由化、加えて作家の個性が尊重されるようになり、「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」は、新築の建築デザイン以上に困難な状況にある。

(8) 「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」では、このような建築デザインの根本的な問題点を考慮すると、それぞれ個別に再構築を検討し、また作品に関する評価が求められている。さらに各作品の再構築を担当した建築家の力量が問われており、こうした作品全体を評価する明確な基準がない状況にある。

(9) フランス建築は、これまで諸外国の建築の様式や動向や流行に敏感で、それらを柔軟に受容し、自らの建築デザインに反映させてきた経緯がある。「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」という新たな建築は、今日フランス現代建築のひとつの大きな動向となっており、こうした建築の再構築に関する考察と新たな尺度からの解釈が求められている。「歴史的建造物と現代建築のデザインの融合」は、フランス現代建築史に位置付けるために、さらなる作品の分析および解釈が必要であり、こうした目的を今後の課題とする。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

三田村哲哉「ポーのカジノフ랑스における建築の再構築に関する研究 その1-」『日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2: 歴史・意匠』2009年、619-620頁、査読無。

三田村哲哉「マルセイユ・サン=シャルル駅舎-フランスにおける建築の再構築に関する研究 その2-」『日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2: 歴史・意匠』2010年、837-838頁、査読無。

三田村哲哉「『地中海宮』のアール・デコ」、『地中海学会月報』第334号、2010年、5頁、査読無。

刀根令子、永山のどか、土方史織、三田村哲哉「セミナー報告: 欧州・都市・歴史(開始!) -近代建築を現代に繋げるヨーロッパ都市から、日本の都市が学ぶこと-」『都市住宅学』第73号、2011年4月、93-98頁、査読無。

[学会発表] (計1件)

三田村哲哉「欧米の建築コンバージョン-成熟都市の新たな建築運用法、(都市住宅セミナー)」、(社)都市住宅学会、東京大学、2011年1月8日。

[図書] (計1件)

小林克弘、三田村哲哉、橘高義典、鳥海基樹『世界のコンバージョン建築』鹿島出版会、2008年。

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三田村 哲哉 (MITAMURA TETSUYA)
研究者番号：70381457

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：